

雜 録

印度亞鉛鐵板需給狀況 (外務省通商局日報第154號)

需給狀況 英領印度の波形及平面亞鉛引鐵板の需要は、年約 150 萬噸(この内 8 割は波形物 2 割は平面物なり)にして、其半分は當國タタ製鐵工場製品供給せられ。他の半分は外國輸入品に俟つ。

外國品輸入狀況 當國製鐵工業は鐵及鋼保護法に依り保護せられ居り、此に依り本亞鉛引鐵板に對しては一般外國品は 1 噸に付 45 留比 5 安 4 杯、英國品は 16 留比 12 安の輸入税を課せらる、英國品は特惠關稅の恩典もあり、輸入品の大部分を占め、白耳義及日本品等之に次ぐ。(1935 年 3 月に至る 1 箇年間の本國輸入額中英國品は 920 萬 558 留比、白耳義は 37 萬 261 留比、日本國は 37 萬 9,903 留比、其他諸國品 22 萬 90 留比を占む)日本品は平面物多く波形物少く、之は日本製波形物は白耳義品等に比し 1 噸に付 4 留比見當高價なるに因る處、白耳義の金本位離脱に依り同國品は英國品と競争状態に立つに至り、日本品との値開き一層増大せる如し。

市況及市價 當方面に於て一般に需要せらるゝ亞鉛引鐵板のゲージは 24 番、26 番及 28 番にして、24 番の長さは 6 呎、7 呎、8 呎、9 呎及 10 呎等にて、此は 1 束平均 206 封度の重量となる如く 14 枚 12 枚、10 枚、9 枚及 8 枚等を以て夫々 1 束に荷造せらる、又 26 番は 10 呎物を 1 枚 1 束と爲す。

英國品の當孟買港の Cif 値段次の如し。(單位 1 噸に付英貨)

ゲージ番號	波形(磅)	平面(磅)
24 番	12-12-6	13-5-0
26 番(ノミナル)	13-17-6	—
〃(ゼネラル)	14-7-6	—
26 番	—	14-15-0
28 番	—	15-5-0

白耳義より輸入の波形物の平均 Cif 價格 10 磅 2 志 6 片見當にして、輸入税の差額を見込むも英國品と競争圈内に在り、又タタ製品は 1 噸に付孟買渡 180 留比見當なり、尙平面物は波形に比し普通 10 志見當高價なり。(以上在孟買、望月領事代理報告)

國際チューブ・カルテル決裂と英國當業者の鋼管輸入税引上申請 (外務省通商局日報第135號)

國際チューブカルテルはコンチネンタル・チューブカルテル決裂の後を承け、之亦 1935 年 3 月 12 日遂に瓦解の運命に遭遇したが、其後の世界市場は統制の失はれた當然の結果として各國製造業者の値段競争激化し、英國市場にも大陸品の輸入急増せんとする事態になつて來たので、今回英國當業者は關稅諮問委員會に向つて鋼鐵管類 (Wrought Iron and Steel tubes and Pipes) に對する輸入税引上の申請を提起した。この國際チューブカルテルは世界主要生産會社の殆んど全部を網羅した強力な統制團體であつた、即ち英國の外獨逸、佛蘭西、白耳義、盧森堡、波蘭、致須國、澳地利、洪牙利の諸國に米國及加奈陀の製造會社も加はり之と併行的には本邦、瑞典、伊太利の主要製管會社も參加する協定があつて多大の効果を收めて來たものであるが、之が何故コンチネンタル・チューブカルテルと共に解散の已むなきに至つたかといふと、元來コンチネンタル・チューブカルテルは 1926 年 7 月 1 日に創始せられ、協定期間は 1940 年迄として參加國は獨逸、白耳義、佛蘭西、致須國、波蘭等であつたが、之が母體となつて前記國際チューブカルテルが出現したものであつた。然るに 1935 年初頭ザールの獨逸歸屬問題が決定すると

共に獨逸側の主張する割當改訂問題をめぐつてカルテル内部に動搖が惹起したのである。ザールには二大製管會社があり、其製品は佛國へ輸出されてをたが同地方が獨逸へ歸屬する上は從來佛蘭西へ輸出して居た分の代償として、當然獨逸の有する割當は増加せらるべきものと云ふのが獨逸側の提起した主張であるが、他方白耳義及ルクセンブルグ生産者はベルガ切下を以て、將來の市場に對處せんとの強い肚もあり折衝容易ならず、遂に決裂の羽目に陥り、土と不可分の關係にある國際カルテルも次いで解散の已むなきに至つた次第である。獨逸側の傳ふる所によると同國は、是等カルテルの瓦解により失ふ所は少ないと見てをる、即ちカルテルの割當は單に輸出市場のみならず國內市場にまで統制が及んでゐるから、獨逸内の需要増進に際し、國內生産者は増産することを得ぬ事情にあり、従つて生産能力の 5 割作業で満足せねばならず、其間外國製管業者によりて漁父の利を占められて居ると云ふ。併し英國當業者はカルテルの効果を重視し、寧ろ其再建を希望して居る。Stewarts and Lloyds の社長 A. C. Macdearmid はカルテルの解散以來市場混亂の狀顯著なるを憂慮し、同社の總會席上で斯く述べてゐる。該カルテル關係者は現今のやうな無統制の競争時代の再現が結局何の利益も齎さぬことを悟るであらう、内外市場に秩序を維持する斯る國際統制の存在によりてのみ斯業は需給調節を爲し得るのでから、英國關係者は國際カルテルの再建を支持する心構を失はず、何時なりとも之が商議に參加する用意がある云々。尙同社長は自社の Corby の新事業に言及し、該事業は前記カルテルの解散もありはせぬかとの懸念もあつた故、萬一の場合には直に作業開始の出来るやうに工事を進捗せしめた爲今や全部的では無いが作業開始の域に達して居り、年來迄には全能力を擧げて生産に従事出来る豫定である。不況の呑底にあつて計畫を立て英國の如何なる工場よりも低い生産費を以て鐵管を仕上げ得る様に工夫したもので、優秀なる大陸の工場と値段競争を爲すとも敢て遜色なしとの自信がある故、追つて全作業を營む時は同社の他の工場が競争上利益の減少に直面する場合でも其補填が出来る許りでなく、攻防何れにも適應した武器として之を活動せしめ得るであらう、云々と述べて居る。(以上在ロンドン松山商務參事官報告)

蘭領東印度亞鉛鐵板需給狀況 (外務省通商局日報第138號)

バタヴィア市の 1935 年 5 月上旬の本品市價次のし。

最需要多き標準品たる 3 呎 × 6 呎 30 番平板は 38 仙乃至 38 仙半(倉庫渡 1 枚に付)、浪板 1 呎に付 6 仙乃至 6 仙半(倉庫渡)を稱ふ。

1934 年 9 月日本の風害により本品の日本相場上向を告げたる爲自然當領に品薄を來し、前記標準品は最高値は 55 仙を示したり、12 月に入り本邦品の輸入を見たるも尙 50 仙見當を動かさず、本年に入りジリ下りを呈し來れり。

屋根葺亞鉛板及棟樑亞鉛引鐵板(統計参照)は、場合に依り蘭印政府は輸入制限措置を講ずるの懼あるやに見受らる。

蘭領東印度の亞鉛引鐵板輸入狀況比較
(單位重量 1,000 kg(哥)金額 1,000 盾)

國別	瓜哇外領の別	1932 年		1933 年		1934 年(暫定數)	
		重量	金額	重量	金額	重量	金額
屋根葺亞鉛引鐵板	瓜哇	6,810	783	7,413	814	6,280	727
總輸入	外額	13,154	1,774	12,400	1,602	9,412	1,290

内 譯		瓜 哇		1935年1~3月第1・4半期		重量(1,000kg)		金額(1,000盾)	
日 本	瓜 哇	瓜 哇	瓜 哇	瓜 哇	瓜 哇	瓜 哇	瓜 哇	瓜 哇	瓜 哇
日 本	瓜 外	哇 領	2,159	284	2,650	347	2,039	270	
	瓜 外	哇 領	5,121	686	7,886	1,041	6,066	844	
英 國	瓜 外	哇 領	2,844	320	1,651	160	363	42	
	瓜 外	哇 領	6,111	839	2,484	318	606	78	
獨 逸	瓜 外	哇 領	180	18	313	31	124	13	
	瓜 外	哇 領	23	3	45	5	—	—	
白耳義ルルクセンブルク	瓜 外	哇 領	1,613	160	2,697	267	2,630	283	
	瓜 外	哇 領	580	61	1,165	129	691	82	
和 蘭	計 外	領	17	2	29	3	—	—	
	瓜 外	哇 領	—	—	98	10	1,123	119	
太 平 洋 岸 米 國	瓜 外	哇 領	780	109	392	52	1,341	188	
	計 外	領	66	9	53	7	58	8	
新 嘉 坡	計 外	領	438	61	336	45	588	83	
	棟 樑 亞 鉛 引 鐵 板	瓜 外	哇 領	74	10	430	53	未	詳
總 輸 入	瓜 外	哇 領	320	49	341	47	未	詳	

内 譯		瓜 哇		1935年1~3月第1・4半期		重量(1,000kg)		金額(1,000盾)	
日 本	瓜 哇	瓜 哇	瓜 哇	瓜 哇	瓜 哇	瓜 哇	瓜 哇	瓜 哇	瓜 哇
日 本	瓜 外	哇 領	24	2	384	45			
	瓜 外	哇 領	92	12	219	27			
和 蘭	瓜 外	哇 領	4	1	10	3			
	瓜 外	哇 領	13	2	—	—			
英 吉 利	瓜 外	哇 領	41	6	32	4			
	瓜 外	哇 領	148	21	61	10			
白耳義ルルクセンブルク	計 外	領	—	—	9	1			
	計 外	領	5	1	—	—			
新 嘉 坡	計 外	領	60	12	45	8			
	棟 樑 亞 鉛 引 鐵 板	瓜 外	哇 領	—	—	—	—		
總 輸 入	瓜 外	哇 領	—	—	—	—			

(以上在バタヴィア、越田總領事報告)

水道協會が水道用鑄鐵管の委託検査の開始 從來水道用鐵管の検査は各市がそれぞれ別々の検査を行つてゐた結果、都市自體多大の冗費を要するばかりでなく、製造者側にも少からぬ不便を感じさせてゐたが東京市水道局内の水道協會では今回鑄鐵管検査の全國的統一事業を開始し、水道界の痼を切開した、水道用鑄鐵管の生産地は東京、大阪及び広島であるが、同協會では最近大阪に出張所を、広島には大阪出張所の派出所を設け、それぞれ検査員を駐

在して、各製造工場へ出張、1 噸につき直管 1 圓、異型管 5 圓の検査料を以て検査に應じ、關係方面の好評を得てゐる。即ち

從來の検査は各市がそれぞれ製造工場に検査員を派遣し、或は所有の検査所に製造工場より鐵管を送付せしめて検査を行つてゐた爲め、旅費、運賃或は検査所維持費等が各市の負擔となり一方製造家側は各市の検査標準が區々なため大量生産を行ふことが出来ず、注文毎にそれに相當するだけの製造を行ふ他はなかつた。

然るに今回水道協會が検査統一に乗出したことは各市にとつては經費の節約となり、一方製造家は協會の劃一検査により生産の目標を得ることゝなつたから、今までの注文生産を廢して、ストックの裕りある大量生産を行ひ得ることゝなつたわけで、久保田、栗本、永瀬、隅田川精鐵所、宇野大阪鐵管等から水道協會へ拍手が送られてゐる。

瓣類、鋼管の検査も開始の計劃 尙ほ水道協會鑄鐵管検査は現在のところ直管と異型管についてのみ實施してゐるが、同協會では更に制水及び排水の瓣類と水道用鋼管についても統一検査を行はんと目下諸般の準備を進めてをり、今後 1 ヶ月以内に實現を見るものと期待されてゐる。斯の如くして水道用管の劃一検査が確立されてゆくことは前記せる如く各市及び鐵管メーカーに多大の便益を供するばかりでなく、協會自體も検査料によつて財源を得ることゝなりこれまで規格統一の如き後備の事業に終始して來た同協會が創立 30 年の今日に至つて經濟的事業への躍進を示したことを物語るものである。(中外商業 7 月 12 日)

屑鐵輸入最高記録(上半期 98 萬 1,000 t) 最近 3 ケ年に亘る我國鐵鋼業界の活況により各種鋼材の生産高累増に伴ひ屑鐵の輸入高は急増し、我國輸入貿易における屑鐵の地位は頗る重要性を加へつゝあるが、本年上半期中の屑鐵輸入高は總計 98 萬 1,000 噸と最高記録を示すに至つた、而し此の輸入高は昨年上半期中の 60 萬 2,000 噸に比し 38 萬噸の激増に當り、昨年 1 ケ年間の總輸入量 141 萬 2,000 噸に對比すれば本年上半期は既にその 2/3 を輸入したことゝなり屑鐵需要の旺盛振りを如實に物語つてゐる。本年上半期並に昨年同期の月別輸入高は次の通りである。(單位噸)

	本年	前年	本年	前年
1 月	146,461	86,143	2 月	164,657
3 月	170,145	111,497	4 月	152,581
5 月	187,751	103,332	6 月	160,000
合計	981,594	602,106		(推定) 99,993

(中外商業 7 月 13 日)

新刊紹介「我々は諸君に何を望むか」 財團法人國民工業學院編纂工業方面及び實業方面に經驗もあり學識もある人々が工業道徳に目標を置いて若き工業従業員及生徒に體驗と抱負を語り、彼等の行くべき道を説いてゐる。工場従業員の爲の修養書としては當を得たもので、内容の割合に定價も 80 錢の廉價版である。

昭和 10 年 外 國 銑 輸 入 高 表 (單位噸)

(銑鐵共同販賣會社)

月 次	輸 出 國 名					其 他	計
	印 度	英 國	獨 逸	米 國	瑞 典		
1	25,247	102	—	204	5	17,876	43,534
2	24,037	203	—	—	—	14,835	39,075
3	26,934	203	102	15	605	14,148	42,007
4	13,946	102	152	—	—	19,721	33,921
5	19,879	91	—	211	—	44,730	64,911
計	110,143	701	254	430	610	111,310	223,448

主要製鐵所に於ける昭和10年5月分鐵鋼材生産高調 (單位噸) (商工省鐵山局)

種別	5月分			累計			%
	昭和10年	昭和9年	増減	昭和10年	昭和9年	増減	
銑鐵	185,664	165,309	20,355	873,604	785,744	66,860	11
	54,515	38,486	16,029	247,339	192,860	54,479	28
普通鋼	389,039	308,230	80,809	1,879,158	1,508,342	370,816	24
	9,343	—	—	9,343	—	—	—
販賣向鋼片	10,622	7,232	3,390	52,012	36,821	15,191	42
	4,911	—	—	4,911	—	—	—
販賣向シート	21,179	13,423	77,566	86,098	66,344	19,754	29
	1,113	—	—	1,113	—	—	—
鍛鋼	3,409	5,426	△ 2,017	23,646	27,063	△ 3,417	△ 12
	299,008	243,405	55,603	1,501,949	1,179,594	322,355	27
普通鋼壓延鋼材内譯							
厚0.7mm以下鋼板	30,354	18,618	11,736	143,159	114,718	28,441	24
	62,476	54,213	8,263	302,373	246,176	56,197	22
其他鋼力	8,303	4,692	3,611	39,129	18,067	21,062	116
	81,650	52,453	29,197	396,929	264,409	132,520	50
形軌線鋼	44,668	41,844	2,824	209,054	163,256	45,798	28
	15,211	27,432	△ 12,221	147,194	149,143	△ 1,949	1
鋼條材管其他	36,368	30,194	6,174	169,398	155,347	14,051	9
	16,125	10,280	5,845	74,990	51,106	23,884	46
其の	3,853	3,679	174	19,723	17,372	2,351	13

備考 増減中△印は減を示す

昭和10年4月中重要生産月報抜萃 (商工大臣官房統計課)

品名	生産額	4月中	前月中	前年同月	1月以降累計	
					昭和10年	昭和9年
金	(gr)	1,393,614	1,438,377	1,250,789	5,409,608	4,737,446
銀	(gr)	20,102,971	20,149,714	19,098,818	77,195,084	69,683,172
銅	(kg)	5,829,772	6,366,842	6,099,933	20,097,368	22,615,283
鉛	(kg)	601,540	587,723	577,891	2,226,810	2,218,275
	(kg)	2,507,375	2,581,720	2,484,056	9,925,842	9,502,894
錫	(kg)	145,507	150,473	85,062	555,625	304,151
硫磺	(t)	12,065	12,204	10,342	46,454	38,068
	(t)	99,924	111,252	90,154	409,399	355,587
鐵	(t)	441,201	464,599	446,872	1,619,517	1,659,962
	(t)	76,906	77,657	57,541	293,506	224,924
石炭	(t)	2,882,553	3,091,696	2,821,298	11,604,817	11,581,097
石油(原油)	(100L)	265,834	260,201	177,183	1,041,734	687,065

學術振興會後援に依る本會員の調査研究概況

日本學術振興會から後援を受けて研究調査に従事してゐる者で本會々員の研究題目及び氏名は下の如くである。

- 「アルミニウム」「マグネシウム」「ベリリウム」等の輕金屬並夫等の合金に關する物理化學的研究
理化學研究所主任 研究員 正員 飯 高 一 郎
- 金屬材料の疲勞に關する研究 (繼續)
日大教授 正員 淺 川 勇 吉
- 高滿俺鋼の諸性質に及ぼす諸元素の影響
秋田鐵專教授 正員 三 神 正 苗
- 特殊鑄鐵の成長に關する研究
桐生高工助教授 准員 熊野御堂 晋
- 合銅硫化鐵鐵の燒滓の處理法 (繼續)
京大教授 正員 渡 邊 俊 雄
- 熔融狀態に於ける電氣爐鋼滓の粘性研究
大阪帝大助教授 正員 松 川 達 夫
- 合金の硬度變化の X 線的研究
東京帝大講師 正員 志 村 繁 隆
同工學部副手 高橋 麟 太 郎
- 鐵鋼の諸性質に及ぼす燐の影響に就ての研究
明專教授 正員 大 屋 正 吉

防楯鋼の研究 (繼續)

- 東北帝大金屬材料研究所囑託 正員 渡 邊 直 行
- 金屬合金の着色に關する研究 (繼續)
東京高等工藝教授 正員 橋 本 宇 一
- 鐵鋼中の含有瓦斯に關する研究 (繼續)
日本特殊鋼會社技師 准員 矢 島 忠 和
- 砂鐵副産物「チタニウム」の利用に就て (繼續)
東北帝大教授 正員 岩 瀬 慶 三
- 電氣機器用鐵燐鐵の製造研究 (繼續)
明專教授 正員 嘉 村 平 八
同同教授 賞 藤 修 平
- 各種鐵物の浮選に對する鐵液の水素「イオン」濃度及各種化學試薬の影響
京大教授 正員 山 田 賀 一
- 衝擊試驗片に關する研究
東京工大教授 本會編輯委員 山 田 良 之 助
- 廣き平面の精密工作法と其の精度測定に關する研究
東京工大助教授 正員 海老原 敬 吉
- 工用具用超硬質合金の物理冶金學的研究
東北帝大助教授 正員 武 田 修 三

(日本學術振興會年報第2號自昭和9年4月至昭和10年3月)

內外最近刊誌參考記事目次

Archiv für das Eisenhütten Wesen. Heft 11. Mai 1935.

- Feuerfeste isolierbausteine als Baustoffe neuzeitlicher Glühöfen. Eduard Senfter. s. 473.
 Untersuchung von Stahlwerksteeren. H. J. Van Royen. s. 479.
 Eigenschaftsänderungen irreversibler ternärer Eisenlegierungen durch Wärmebehandlung. Werner Köster. s. 491.
 Umwandlungs-, Härtings- und Anlassvorgänge in stählen mit Gehalten bis 1% C. und bis 12% Cr. Walter Tofante. s. 499.
 Einfluss von Stickstoff und Sauerstoff auf die mechanische Alterung von Stahl. Walter Eilender.
 Einfluss der Abmessungen der Ziehwerkzeuge auf das Ergebnis des Tiefungsversuchs bei Stahlblech. Willi Tonn. s. 511.
 Eigenspannungen in prägepolierten Stahlstangen. Hans Bühler. s. 515.

Stahl und Eisen. 16-23. 55 Jahrg. 1935.

- Ueber Tiefenentschlackung und ihre Anwendung. Alfred Rotten. s. 433.
 Auswahl der Brennstoffe für die Kohlenstaubmaschine. Friedrich Schulte. s. 442.
 Die neuere Entwicklung des Siegerland-Wieder Eisensteinbergbaues. Richard Schneider. s. 457.
 Aufgaben der Fähigkeitsauslese der Gefolgschaft in Eisenhüttenwerken. Erich Pressel. s. 460.
 Ueber Erfahrungen mit Messgeräten, besonders dynamischen Dehnungsmessern, zur Untersuchungen des Welzvorganges. Hubert Hoff. s. 485.
 Schlacken als Stickstoffträger. Walter Eildender. s. 491.
 Ueber die Zustellungs- und Instandhaltungskosten von Siemens-Martin Oefen. Friedrich Wilhelm Morawa. s. 509.
 Neuartige Drahtbund-Forderanlage für Walzwerke. August Flügge. s. 515.
 Die Verwendung von sauerstoffangereichertem Gebläsewind in Hochofenbetrieb. Lennings, Wilhelm. s. 533.
 Leistungen über wachung in Feinblechwalzwerken. Skroch, Kurt. s. 544.
 Allgemeine Grundlagen für Bau und Ausführung von Rollenlagern. Jürgensmeyer Wilhelm. s. 557.
 Die Verwendung von sauerstoffangereichertem Gebläsewind in Hochofenbetrieb (Schluss). Lennings Wilhelm. s. 565.
 Zerspanbarkeit deutscher und amerikanischer Baustähle. Wallich's Adolf. s. 581.
 Allgemeine Grundlagen für Bau und Ausführung von Rollenlagern (Schluss). Jürgensmeyer Wilhelm. s. 586.
 Zum 25 Jährigen Bestehen des Neubaus der hüttenmännischen institute an der Technischen Hochschule zu Aachen. s. 613.
 Ausführung und Berechnung von Rollenlagern im walzwerksbau, Bauart Kugelfischer. Schulz Hans. s. 616.

Die Giesserei. Heft 10-12. 22 Jahrg. 1935.

24. Hauptversammlung des Vereins deutscher Giessereifachleute am 1. und 2. Juni 1935 in Berlin. s. 213.
 Das heutige Gusseisen und seine Verwendungsmöglichkeiten in der Konstruktion. A. Thum VDI. s. 214.
 Die Giessereimaschinen auf der Leipziger Frühjahrsmesse. Geilenkirchen. s. 219.
 Das Dämpfen und Trocknen von Holz in Modelltischlereien. Otto. Th. Koritnig. s. 222.
 Die Verwendungsmöglichkeiten älterer Modelle. Rich Löwer. s. 225.
 Die Werkstoffersparnis im Lichte der Abnahme und Konstruktionsbedingungen. J. Flimm. s. 229.
 Der Kohlenstaub im Formsand. A. Rodehüser. s. 244.
 Wasserturbinenlaufräder und ihre Herstellung. Fritz Paschke. s. 252.
 Rohstofffragen der deutschen Metallwirtschaft. F. Söhnchen. s. 255.
 Die Giessei institut der Technischen. Hochschule Aachen. s. 269.
 Ueber die Auflösungs geschwindigkeit des graphits im flüssigen Eisen. E. Piwowarsky. s. 274.
 Ueber den Einfluss von Antimon in Perlitischem, martensitischem und austenitischem Gusseisen. E. Piwowarsky. s. 277.
 Graphitbildung im Grauguss. H. Nipper. s. 280.

- Einige Ratschläge für den Aluminiumgiesser. H. Nipper. s. 287.
 Die Härtungserscheinungen in Aluminiumbronze. E. Söhnchen. s. 289.
 Aushärtung und Korrosion. E. Söhnchen. s. 294.
Blast Furnace and steel plant, May, 1935.
 Silica and Alumina in Iron Ores. T. L. Toseph. p. 313.
 The production of blackplate. J. Selwyn Caswell. Part II. p. 317.
 Sulphuric acid from Spent Pickling Liquor. S. F. Spangler. p. 319.
 Finishing the heat of steel. Part XXXII. J. H. Hruska. p. 322.
 The design of electric drives. Part II. Philip M. Gallo. p. 326.
 Maintenance of Roll Neck Bearings. A. H. Frauenthal. p. 329.
 Colloidal Treatment of Boiler Feedwater. J. S. Merry. p. 331.
 Making quality steels. Emil Gathman. p. 333.
 Cold Rolling Processes. J. Selwyn Caswell. p. 335.
Iron and Steel Industry, May, 1935.
 Further determinations of the external heat loss of Blast furnace. D. F. Marshall. p. 298.
 The welding of special steels. W. H. Hatfield. p. 311.
 The surface Hardening treatment, applied to cast Iron. J. E. Hurst. p. 314.
 Bright and Free-cutting steels. R. T. Rolfe. p. 315.

(鈴木)

The Metal Industry (London) Jan. 18, 1935.

- The Doehler Brass casting process. C. R. Norwood. p. 91-95.
 Bismuth in Copper. C. O. Banister, W. M. Doyle. p. 96-99.
 Some further principles of electrochemistry applied to electro-deposition. S. Field. p. 103-104.
 Metal protection by electrodeposition. S. Wernick. p. 104-106.

The Metal Industry (London) Jan. 25, 1935.

- The value of technical, patent and commercial libraries. G. Evans. p. 117-118.
 Effect of melting conditions on the running quality of aluminium cast in sand moulds. A. I. Krynitisky. C. M. Saeger. p. 119-121.
 Smelting in lead brast-furnace G. L. Oldright, V. Miller. p. 122-124.
 Bismuth in copper. C. O. Bannister, W. M. Doyle. p. 125-128.
 The German non-ferrous metal market in Dec. p. 129-130.

The Metal Industry (London) Feb. 1, 1935.

- The Avonmouth works of the National Smelting Co. p. 141-143.
 Bismuth in copper. C. O. Banister, W. M. Doyle. p. 145-147.
 The microstructure of electrodeposited coating. A. W. Hothersall. p. 151-152.
 Methods of suspension in electrodeposition practice. C. F. J. Francis-Carter. B. J. R. Evans. p. 153-154.

The Metal Industry (London) Feb. 8, 1935.

- Fettling die castings. E. Stevan. p. 165-167.
 The effect of elevated temperature on the strength and dimensional stability of certain aluminium alloys used in aircraft. R. R. Kennedy. p. 169-170.
 Bismuth in copper. C. O. Banister, W. M. Doyle. p. 171-172.

Smelting in the lead blast-furnace handling zinciferous charges. G. L. Oldright, V. Miller. p. 173-175.

The French non-ferrous metal market in Jan. p. 176-177.

The Metal Industry (London) Feb 15, 1935.

- Stamping brass caps. A. G. Arend. p. 189-190.
 Scientific management in industrial undertakings. F. Meyenberg. p. 191-194.
 The manufacture of pewter. F. Orme. p. 195-198.
 Some further principles of electrochemistry applied in electrodeposition. S. Field. p. 199-200.
 The effect of oxidising agents on nickel deposition. A. W. Hothersall, R. A. F. Hammond. p. 201-202.

The Metal Industry (London) Feb. 22, 1935.

- Copper precipitation. A. J. Caddick. p. 213-215.
 Pickling problems. p. 215-217.
 The soldering of aluminium. H. Silman. p. 218.

- The effect of some mill variables on the gauge of sheet brass. C. K. Skinner. p. 219-221.
 The manufacture of pewter. F. Orme. p. 222-224.
 The German non-ferrous metal market in Jan. p. 225-226.
The Metal Industry (London) March 1, 1935.
 Interior fittings in metal. p. 237-238.
 The protection of metals by coatings. W. H. J. Vernon. p. 239-242.
 Structures in aluminium. E. T. Painton. p. 243-246.
 Pickling problems. p. 247-249.
 The effect of oxidising agents on nickel deposition. A. W. Hotherhall, R. F. Hammond. p. 251-255.
The Metal Industry (London) March 8, 1935.
 The remelting and refining of scrap nickel. E. R. Thews. p. 265-268.
 Institute of metals annual general meeting. p. 269-270.
 Design of rolling mills for cold-rolling metals, ferrous and non-ferrous. C. E. Davies. p. 273-275.
 The protection of metals by coatings. W. H. J. Vernon. p. 276-278.
 Cold pressing and drawing symposium. p. 279-280.
 The Effect of elevated temperatures on the strength and dimensional stability of certain aluminium alloys used in aircraft. R. R. Kennedy. p. 281-282.
The Metal Industry (London) March 15, 1935.
 Metal work for ceremonial occasions. p. 293-294.
 Symposium on gold pressing and drawing. p. 295-298.
 Design of rolling mills for cold-rolling metals, ferrous and non-ferrous. C. E. Davies. p. 299-301.
 Structures in aluminium. E. T. Painton. p. 303-306.
 The protection of metals by coatings. W. H. J. Vernon. p. 307-308.
The Metal Industry (London) March 22, 1935.
 Die casting in brass. E. Stevan. p. 321-322.
 The precious metals—gold, silver and platinum. E. Downs. p. 323-325.
 Design of rolling mills for cold rolling metals, ferrous and non-ferrous. C. E. Davies. p. 327-330.
 The German non-ferrous metal market in Feb. p. 331-332.
 Electro-magnetic devices for the non-ferrous metal trade. p. 333-334.
 Preparation of pure gallium. J. I. Hoffman. p. 335-336.
 Electrodepositors' technical society discussion on the effect of oxidizing agents on nickel deposition. p. 337-339.
The Metal Industry (London) March 29, 1935.
 The ductile alloys of copper and Silicon. H. H. Parrett. p. 349-350.
 Some practical non-ferrous foundry problems. F. Dunleavy. p. 351-354.
 Recent developments in electric furnaces for non-ferrous metals. A. G. Robiette. p. 355-357.
 The manufacture of aluminium plate. p. 358.
 The precious metals—gold, silver and platinum. E. Downs. p. 359-361.
 The French non-ferrous metal market in Feb. p. 362-363.
The Metal Industry (London) April 5, 1935.
 The origin of metal alloying. E. A. Smith. p. 375-377.
 Recent advances in machine tool practice. L. M. Angus-Butterworth. p. 377-378.
 Recent advances in the founding of aluminium alloys. I. G. Slater. p. 379-382.
 Recent developments in electric furnaces for non-ferrous metals. A. G. Robiette. p. 383-385.
 The precious metals gold, silver and platinum. E. Downs. p. 386-388.
 Some further principles of electrochemistry applied to electrodeposition. S. Field. p. 389-390.
 Preparation of pure gallium. J. I. Hoffman. p. 391-392.
The Metal Industry (London) April 12, 1935.
 Treatment of impurities in the production of electrolytic zinc. W. Froelich. p. 403-406.
 Some characteristics concerning the hot and cold rolling of flat stock. J. S. Caswell. p. 407-411.
 Some practical non-ferrous foundry problems. F. Dunleavy. p. 412-414.
 Recent advances in the founding of aluminium alloys. I. G. Slater. p. 415-418.
 The precious metals gold, silver and platinum. E. Downs. p. 419-420.
The Metal Industry (London) April 19, 1935.
 Bronze welding. G. H. S. Tupholme. p. 431-432.
 Recent advances in the founding of aluminium alloys. I. G. Slater. p. 433-436.
 Institute of metals—London Section. p. 437-438.
 The determination of the structure of electrodeposits by metallurgical methods. D. T. Macnaughton, W. Hotherhall. p. 439-441.
 The Faraday Society abstracts of some of the papers. p. 442-443.
The Metal Industry (London) April 26, 1935.
 The bronzes as engineering materials. F. T. Taylor. p. 453-456.
 Nephelometry in the metal industry. T. Grant. p. 457.
 Some practical non-ferrous foundry problems. F. Dunleavy. p. 458-459.
 Smelting in the lead blast furnace. G. L. Oldright, V. Miller. p. 460-463.
 Acid and basic bottoms of copper refining furnaces. E. R. Thews. p. 464-465.
The Metal Industry (London) May 3, 1935.
 Repairing zinc base die castings by oxy-acetylene welding. G. W. Mage. p. 477-479.
 Wrought magnesium alloys. W. E. Prythergh. p. 480-482.
 Metallurgical Research. p. 483-484.
 Modern sheet metal work. p. 485-486.
 The copper restriction scheme. p. 487-489.
 The stemature and preperities of nickel deposited at high current densities. W. Blum. C. Kasper. p. 489-491.
 The Faraday Society, further abstracts of the papers. p. 492-493.
The Metal Industry (London) May 10, 1935.
 Notes on the founding of phosphor bronze. R. G. Stockton. p. 503-505.
 Wrought magnesium alloys. W. E. Prythergh. p. 506-508.
 Alloys—old and new. H. C. H. Carpenter. p. 509-512.
 Acid and basic bottoms of copper refining furnaces. E. R. Thews. p. 513-514.
 The development of rolled nickel alloys. p. 515.

(中野)

エンヂニヤリング Vol 23, No. 6

特殊鑄鐵に就て 大西信三郎 (229)

Nickel 合金鑄鋼に就て 藤原 唯義 (216)

製鐵研究 第 142 號 昭和 10 年 4 月

洗炭法の改良に就て 入江 定男 (251)

耐摩耗特殊鉄フェルング及び内張板の鑄造と其の實用價值に就て 松倉 眞一 (279)

電氣化學 第 3 卷 第 6 號

金屬にアルミニウムを電鍍する方法の研究(其の 2) 龜山 直人 外 5 名 (3)

アルミニウム酸化皮膜と一試験法 富井 六造、宮川保一郎 (12)

工業化學雜誌 第 38 編 第 6 冊

光度測定法の研究、亜酸化銅光電池の應用並に特別高速度鋼のヴァナヂンの定量 宗宮 尙行、中村 良夫 (643)

外務省通商局日報 124 號 昭和 10 年 6 月 7 日

白國の鐵管及鋼管輸入特別許可制實施(有田特命全權大使報告) (821)

商工省貿易局通報 第 244 號 昭和 10 年 6 月 7 日

佛國に於ける酸化鐵に對する輸入割當制停止(昭和 10 年 5 月 8 日附在佐藤大使報告)

西國に於ける鋼鐵板其他輸入割當制適用除外(昭和 10 年 4 月 26 日附西國青木公使報告)

金屬の研究 第 12 卷 第 5 號

互に共存する金屬イオン及び磷酸根の分離定量(第 1 報) 石丸 三郎 (237)

高溫度に於ける鐵鋼の酸化並にスケールの構造に就て 遠藤勝治郎 (235)

輕金屬の化學冶金學的研究(第 2 報)

鹽化マグネシウムの酸化平衡に就て 佐野 幸吉 (247)

金屬セメンテーション(第 4 報)

錫に依るセメンテーション(II) 加瀬 勉 (257)

石炭時報 第10卷 第6號

石炭の乾餾に就て 下村 明 (7)
 煉炭製造用原料粉炭の粒度に就て 森政 保 (19)

工學彙報 (九大) 第10卷 第1號

鐵及鋼の除磷と酸溶解抑制劑に就て 寺野 寬二、高橋德太郎 (1)

鞍山鐵鋼會雜誌 第54號 昭和10年3月

鞍山の還元焙燒爐内に起る瓦斯反應に就て 梅根常三郎、松原 厚 (257)
 高爐セメントの特質に就て 西脇 寬 (283)
 印度南洋方面鐵鑛視察報告(終編) 吉村 萬治 (297)

機械學會誌 第38卷 第218號

數値の表示及び計算に無駄の手數を省くこと 沖 巖 (379)
 衝擊振り試験(第5報) 市原 通敏 (393)
 疲勞破斷面に關する研究 淺川 勇吉、藤田 駿 (399)

鑄物 第7卷 第6號

鋼鑄物傾斜轉倒鑄造法に就て 海軍艦政本部 (327)
 鑄造方案と其れに關聯する諸規定 楠瀬 四郎 (330)

工政 第182號 昭和10年6月

造船補助工業界に望む 松尾忠二郎 (5)
 電氣製鋼業 渡邊 俊雄 (7)
 金屬材料概説 加瀬 勉 (11)

土木試驗所報告 第30號

國道銜結鋼桁橋標準設計案 青木 楠男、牧野 喬 (137)

理化學研究所彙報 第14輯 第6號

鋼の所謂二重變態に就て 田丸 莞爾 (475)

電氣學會雜誌 第55卷 第6冊

熔融點附近に於ける誘電體の性質に就いて 福田 勝、齋藤 幸男 (536)
 製鐵に於ける電動力應用 立花貫一郎 (552)

電氣製鋼 第11卷 第6號

クローム半硬鋼の機械的性質 竹内 保資 (277)
 マンネスマン鋼管穿孔壓延方法の發明と技術上の發展(其の一) 小島 義正 (303)

動力 昭和10年6月10日

昭和9年度の本邦水力發電界 弘山 尙直 (1)
 昭和9年度に於ける本邦の火力發電界 太田 定治 (20)
 滿洲化學工業會社のヒート、コンバーターに就て 益 進 (33)

外務省通商局日報 第135號 昭和10年6月20日

國際チューブ・カルテル決裂と英國當業者の鋼管輸入税引上申請 (911)

燃料協會誌 第153號 6月號

石炭の液化工業に就て 小玉 美雄 (691)

日立評論 第18卷 第6號

スタビラーク銲接機 小川 毅 (13)

採鑄冶金月報 第13年 第6報

北海道炭礦より見たる常磐炭礦 伊藤 憲吉 (145)
 亞鉛電鍍用のアルミニウム電極に就て 仲田 旭 (152)
 1931年より1933年迄の歐米に於ける冶金術の發達 (163)

朝鮮鑄業會々報 第150號

金銀鑛分析より觀たる朝鮮の金鑄業 葛原 大策 (5)

土木學會誌 第21卷 第6號

鑄鐵管に於ける流量に就て 岩崎 富久 (883)
 鑄鐵管に於ける流量に就て 池田篤三郎 (884)
 水道鐵管破裂の復舊作業と所要時間に就て 植村 倉藏 (886)
 水道鐵管破裂の復舊作業と所要時間に就て 岩崎 富久 (883)

電氣協會々報 第162號 昭和10年6月

米國に於ける水力開發の現状並に工業と動力の關係に就て 野口寅之助 (49)
 鐵塔の強度に就て 小笹 進 (52)

日本鑄業會誌 第51卷 第602號

銅の今昔 池田 謙三 (335)
 分解ガソリンの精鍊方法(第1報) 吉村 悌治 (362)

銲接協會誌 第5卷 第3號

薄板(1.5-6mm)V型接手電弧銲接に於て生ずる歪と假補強材との關係に就いて(I) 美馬源次郎 (149)
 銅及び銅合金の電弧銲接(第II報) 岡本 赴 外2名 (159)

電弧銲接用被覆劑の電弧現象に及ぼす二、三の特性 柴田 晴彦、鯉淵 正夫 (164)

薄板の銲接 佐々木新太郎 (175)
 アルミニウム及其合金の電弧銲接(第IV報) 岡本 赴 外2名 (178)

金屬の研究 第12卷 第6號

金屬及び合金の眞比熱測定 本多光太郎、徳永 正勝 (267)
 各種耐酸合金の耐酸度比較研究 金澤 重憲、遠藤 彦造 (280)

交流の磁化に及ぼす影響 仁科 存 (297)
 金屬セメンテーション(第4報) 錫によるセメンテーション(III) 加瀬 勉 (301)

ミシン部分品材料の研究 岸本 浩 (309)

日本化學會誌 第56巻 第6號

酸化チタニウムの熱化學(第2報) 那須 信行 (659)

熱化學的計算 那須 信行 (666)
 五酸化ヴァナヂウムの解離壓

アルミニウムの重量分析(第9報) アニリンに依るアルミニウムとマンガン、ニッケル、コバルト及び亜鉛との分離定量に就て 高津 壽雄 (683)

金屬酸化物の還元平衡(第7報) 水素及び水蒸氣の混合氣體に於ける熱分離効果の測定 柴田 善一、北川 公 (722)

金屬酸化物の還元平衡(第8報) $FeO + H_2 \rightleftharpoons Fe + H_2O$ 及び $Fe_3O_4 + H_2 \rightleftharpoons 3FeO + H_2O$

二系の平衡恒數測定に及ぼす熱分離効果の影響 柴田 善一 (736)

北海道石炭鑄業會々報 第250號

幾春別炭田に於ける石炭層の研究 石倉 新、矢野 貞三 (1)

滿洲技術協會誌 第12卷 第75號

日滿鐵鋼政策に就いて 伍堂 卓雄 (394)
 水道鐵管に膠泥を裡裝せん事を提唱す 宮島 忠雄 (403)

石炭液化工業に關して 水谷光太郎 (412)
 液體酸素の話 久留島秀三郎 (423)

昭和製鋼所概要 (435)

滿洲冶金學會會報 第5號

鋼の燒入 大日方一司 (5)
 滿洲冶金學會記事 (13)

滿洲冶金學會定款 (22)
 本溪湖に於ける低磷銑(純銑鐵)の製造に就て 井門 文三 (143)

マグネシウム、カドミウム系を基礎とする多元系輕合金の研究 大日方一司 (2)

海外經濟事情 昭和10年 第12號

鑛産物生産並貿易統計(昭和10年4月13日附在新加坡帝國總領事那司喜一報告) (57)

獨逸原料品輸入貿易の變遷(昭和10年5月8日附在獨逸帝國大使館商務書記官長井亞歷山報告) (59)

獨逸經濟界狀況(昭和10年3月25日附在獨逸帝國商務書記官長井亞歷山報告) (63)

羅府港對日貿易月別統計(昭和10年5月2日附在ロスマンゼルス帝國領事堀公一報告) (95)

工業雜誌 第71卷 第895號

金屬材料の機械的試驗 (308)